

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

川崎駅周辺地区

平成24年3月

神奈川県川崎市

1. 数値目標の達成状況の確認（確定値）

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価					フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み					理由	改善策の方向性	
指標1	駅乗降客数	人/日	280,000	350,000	312,246	確定 見込み	△	あり なし		324,389	H23年9月	△	北口自由通路整備事業が完成しなかったため。	☐ 改善策はそのまま ☒ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	JR川崎駅周辺のバリアフリー化や駐輪場整備を進めた結果、交通拠点機能が向上しており、駅乗降客数が増加傾向にある。今後、北口自由通路整備事業によって、乗降客数の増加を目指す。
指標2	東口駅前広場からJR川崎駅へ向う歩行時間の短縮	分	約5.5	約2.0	約2.0	確定 見込み	○	あり なし		約2.0	H23年4月	○		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	JR川崎駅東口駅前の再編整備を行い、これまでは川崎地下街を通る必要があったバスターミナルや市街地に地上から平面移動できるようになった。そのため、東口市街地からJR川崎駅に向かう歩行時間が短縮されることになった。
指標3	東西往来者数	人	約30,000	約76,000	49,262	確定 見込み	△	あり なし		70,347	H23年9月	△	当初指標達成に大きく寄与すると考えていた北口自由通路整備事業が完成しなかったため。	☐ 改善策はそのまま ☒ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	エレベーター・エスカレーターを設置やサイン等の誘導施設の設置など、JR川崎駅東西の往来者は確実に増加しており、東西の一体性や回遊性の強化は図られている。今後、北口自由通路整備事業によって、東西往来者数の増加を目指す。
指標4	東口駅前広場の満足度	%	32	50	70	確定 見込み	○	あり なし		75	H24年3月	○		☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	JR川崎駅東口駅前広場の再編整備により、動線の複雑さ・不便さを解消し、安全にバス乗降ができるようになった。また、大屋根の設置等により、洗練された景観が創出された。さらに、社会実験の実施結果により、自転車歩行者道の分離の有効性や押し歩きの実現性が確認された。
指標5						確定 見込み		あり なし			H 年 月			☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	地区居住人口	人	26,996		32,210	確定 見込み			32,133	H23年3月		震災の影響により、公共・民間事業の整備が遅れたため。	☒ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	駅前広場の再編整備により交通結節機能の向上が図られ、また、駅周辺の高層マンション開発や商業施設の開業など多様な都市機能が充実した。引続き都市拠点形成を推進する。
その他の数値指標2	川崎駅周辺地区における通行量	人・台/日	351642		473,288	確定 見込み			434,516	H23年3月		東口駅前広場の再編整備により、歩行者動線に変化が生じたため。	☒ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	引続き、魅力あふれる都市拠点として、商業・業務・文化交流・都市型居住機能の誘導を図る他、北口自由通路の整備を進め、集客力や回遊性等を図る取組を推進する必要がある。
その他の数値指標3			-			確定 見込み				H 年 月			☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4ー③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5ー③に記載した 今後のまちづくり方策（事項）		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	川崎駅周辺の回遊性や賑わいの強化	羽田空港国際化による外国人観光客やビジネスマンの集客が図られる機能の誘導、富士見周辺地区再整備の実施計画に基づく取組の推進、路上演奏事業等を実施した。	国際化を視野に入れた商業・業務機能の誘導に向けた事業の推進、富士見周辺地区再整備に向け実施計画に基づく取組の推進、路上演奏事業等を実施し、賑わいや回遊性の向上が図られた。	引続き、羽田空港の国際化や国際戦略総合特区の指定を踏まえ、民間活力を活かし、川崎の玄関口となる都市機能の充実に向けた取組を進めていく。また、富士見公園再編整備に対応した商店街との連携の強化を図り、川崎駅周辺の快適性や魅力の向上を図る。
	川崎駅周辺の利便性・快適性の維持	路上喫煙対策、ポイ捨て禁止等の活動について、駅前広場の快適性を維持するための庁内検討会議を開催した。	路上喫煙やポイ捨て禁止の呼掛け活動、清掃を行い、駅前広場の快適性が維持された。	引続き、路上喫煙やポイ捨て禁止の呼掛け活動、清掃を行うとともに、ホームレスや路上ライブ対応など、課題解決に向けた総合的な体制構築が必要となる。
	放置自転車対策の推進	市民ボランティア等を活用した放置自転車禁止の周知徹底、走行マナーの啓発を行った。	走行マナーの啓発等による利用者意識の改革を図り、放置自転車の減少につながった。	引続き、駐輪場の整備を進めるとともに、走行マナーの啓発等により利用者意識の向上を図り、放置自転車の減少につなげていく。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	川崎駅東西市街地の円滑な通行（東西自由通路の混雑解消）	JR川崎駅北口自由通路の整備に向け、JR等と調整を進めた。	北口自由通路の詳細設計等を進めた。	JR川崎駅北口自由通路完成に向け、引続き関係者等と調整を図っていく。
	放置自転車対策の推進	宮本町の機械式駐輪場(収容台数1,226台)を整備し、指定管理者による運営を行った。	利便性が高い機械式駐輪場を整備した。	引続き、自転車利用者の実態に即した駐輪場の整備を図るとともに、マナー向上に向けた取組を図っていく。
	JR川崎駅と京急川崎駅の連携強化	川崎駅の回遊性、拠点性の向上を図るため、来年度実施予定の京急川崎駅とJR川崎駅と結ぶ歩行者専用道路工事について、関係事業者等と調整した。	来年度実施予定の歩行者専用道路工事について、関係事業者等の工程等について、調整が図られた。	JR川崎駅と京急川崎駅間の歩行者専用道路の着手に向けた関係者との調整を進め、早期の完成を目指す必要がある。
	駅周辺の憩いのスペースやレクリエーション機能の充実	富士見公園内での長方形競技場整備に向け、関係者等と調整を進めた。	長方形競技場の測量・設計等を進めた。	引続き、富士見公園の再整備を進めていく。

事後評価シート 添付様式5ー③から転記

様式4ー④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	かわさき市 川崎市	地区名	かわさき市、うつへんあ　く 川崎駅周辺地区	面積	49	ha							
計画期間	平成	18	年度	～	平成	22	年度	交付期間	平成	18	年度	～	平成	22	年度

目標
大目標: 交通利便性が高い、都市機能が集積した活力と魅力にあふれる広域拠点の形成 目標1: 駅東西地区の一体性を高めるための交通結節機能を向上し地区内を往来しやすいまちづくりを推進する 目標2: 東口駅前広場の再編と周辺の都市基盤施設等を整備し、人と環境にやさしいうるおいある都市空間づくりを推進する 目標3: 駅東西地区の回遊性の強化とあわせ川崎らしいまちなみと個性的で賑わいあるまちづくりを推進する
目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 ・川崎駅周辺地区の現況は、東京・横浜に近接する地理的優位性から、JR川崎駅には、東海道線、京浜東北線、南武線の3路線があり、京急川崎駅には、京急本線、京急大師線の2路線が乗り入れており、市内最大の利用客数を誇っている。さらに市役所をはじめとする都市機能が集積する本市の玄関口として、首都圏における広域的な交通利便性の高い主要ターミナル駅である。 ・川崎駅周辺の土地利用は、JR川崎駅を中心に大きく東口地区及び西口地区に分けられる。東口側は、本市の表玄関であり、駅前広場に面した大規模商業店舗や駅周辺市街地の商店街を中心とする商業機能の集積とともに、市役所や区役所をはじめとする公共機能、中枢業務機能や都市型サービス機能等の都市機能が集積した界限性のある地区である。一方、西口側では、駅近から住宅市街地が展開している。現在、堀川町東芝工場跡地の開発計画や西口再開発事業において、都市型居住機能を中心とし、商業、業務、文化機能などが融合した新たな川崎の顔づくりが進められており、川崎駅周辺地区では、二面性のある拠点形成が進められている。 ・まちづくりの経緯では、東口地区は、昭和61年に地下街アゼリア、東西自由通路が完成し、界限性の高いまちづくりが進められてきたが、集客施設相互の一層の回遊性向上を図る歩行者ネットワークの形成やアーバン計画策定後20年が経過しており、駅前広場機能の再編や駅周辺の老朽化した建物や土地の高度利用や有効活用が進んでいない施設などの機能更新時期を迎えている。 ・こうした社会動向を踏まえ、都市の再生を図るため、JR川崎駅、京急川崎駅の両駅を中心とした地域(約53ha)を都市再生緊急整備地域に指定するとともに、少子・高齢社会の進展、ライフスタイルの多様化、社会経済環境の変化などから、あらたに生じている課題解決に向けて、平成16年7月から、学識者、市民、商業者、公共交通事業者、交通管理者等で構成する「川崎駅周辺総合整備計画策定協議会」を設置し、将来を見据えた駅周辺地区のあるべき姿や都市基盤施設等の整備、利便性・回遊性の向上、バリアフリー化への対応など様々な観点から、協議、検討を進め、今年度に川崎駅周辺総合整備計画をとりまとめる。
課題
・西口地区の大規模商業施設等開発計画の進展とともに、東口地区における大規模商業施設のリニューアルなどの機能更新とあわせ東西両地区を結ぶ歩行者主動線である駅東西自由通路の利用者の通行量の増加が予想される。これに伴う歩行者動線の輻輳、安全性などを考慮し混雑解消、交通利便性の向上を図る必要がある。 ・東口駅前広場は、市域南部の市街地方面や臨海部方面へ向うバスターミナルが集積している。各バス停へのアクセスは、安全性の観点から歩車道分離により整備された地下街アゼリアから主に階段で行かなければならない。このため、バス停と地下街をはじめ、駅東西自由通路と地上部などとの高低差を解消するためのバリアフリー施設の充実を図る必要がある。あわせて、地上部における駅前広場と周辺大規模商業店舗等を結ぶ歩行空間が狭い箇所があるなど東口駅前広場全体の再編にあわせてバリアフリー化を高める必要がある。 ・東口駅前広場周辺においては、約7,800台分の駐輪場が整備されているが、常に満車状態にあり、駅周辺では、約3,000台の自転車が放置されており、円滑で安全に利用できる歩行空間の確保が課題となっている。このため、放置自転車への周知徹底や走行マナーの向上などのソフト的な取組み活動もあわせ改善を図る必要がある。 将来ビジョン(中長期) ・平成17年3月に策定された川崎市新総合計画において、川崎駅周辺地区は広域拠点の形成を図る地区として位置づけられ、首都圏における地理的優位性を活かし、既存の高い商業・業務機能の集積を活かしながら、機能強化を進めるとともに羽田空港の再拡張・国際化に対応した民間主導による都市の再整備を適切に誘導・促進し、広域的な集客機能を備えた活力と魅力にあふれる広域拠点の形成を重点的に推進する。 ・商業・業務など都市機能の向上や広域的な拠点地区の形成を支える駅前広場や基幹的な幹線道路等の公共施設の整備改善、交通結節機能の向上など交通体系との連携を強化し「広域調和・地域連携型」都市構造をめざしたまちづくりを推進する。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
駅乗降客数	人／日	JR川崎駅の駅乗降客数の合計	東西の一体的な駅周辺整備による広域的な利便性の向上度合いを駅乗降客数の増加で評価し、25%の増加を目標とする。	280,000人／日	H17	350,000人／日	H22
東口駅前広場からJR川崎駅へ向う歩行時間の短縮	分	東口駅前広場の主動線によりJR川崎駅へ向う歩行時間の短縮	安全で安心な歩行空間を確保することなどにより、混雑解消、交通利便性の向上を図り、歩行時間の短縮により、地区内を往来しやすいまちづくりを推進する。	約5.5分	H17	約2.0分	H22
東西往来者数	人	東西自由通路及び東西連歩道橋往来者数の合計(平日12h)	東西自由通路や東西連絡歩道橋のバリアフリー化により、駅東西の快適性、回遊性の一層の向上を図り、中心的な広域拠点の形成を目指す。	約30,000人	H17	約76,000人	H22
東口駅前広場の満足度	%	利用者による東口駅前広場の満足度(満足度アンケートによる)	東口駅前広場及びその周辺の回遊性やバリアフリー化などについて利用者の半分程度が満足する整備を目指す。	32%	H17	50%	H22

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
整備方針1 （広域的拠点形成と地域連携のまちづくり） ・西口駅前広場の整備にあわせて、東口駅前広場の再編整備を行い、ターミナル性を高めることにより、交通結節機能を強化し、広域的な拠点形成を図る。 ・西口の大規模開発が予定されているため、東西の連絡を強化し、交通結節点としての利便性を高める。		【基幹事業】 ○高質空間形成事業（川崎駅東口駅前広場EV・ES、シェルター等整備） 【提案事業】 ○地域創造支援事業（川崎駅東口駅前広場修景整備事業） ○事業活用調査（川崎駅東口駅前広場計画調査）…東口駅前広場 ○事業活用調査（まちづくり交付金事業効果検証調査） 【関連事業】 ○住宅市街地総合整備事業・・・西口駅前広場、都市計画道路等の整備 ○交通結節点改善事業・・・東口駅前広場改良 ○都市再生交通拠点整備事業・・・東西自由通路EV、東西連絡歩道橋EV等 ○北口自由通路等整備事業
整備方針2 人と環境にやさしいまちづくり ・地区全体の回遊性に配慮しながら、駅前広場や歩行支援施設等を連携させ、バリアフリー化の行き届いた安心・安全なゆとりある駅周辺の整備を図る。 ・誰にでも分かりやすい案内やサイン計画により、駅周辺の利便性の向上を図る。		【基幹事業】 ○高質空間形成事業（川崎駅東口駅前広場EV・ES、シェルター等整備） ○人にやさしいまちづくり事業・・・J R川崎駅東口駅前E S設置 京急川崎駅前E S設置 ○バリアフリー環境整備促進事業・・・京急川崎駅前E V設置、川崎地下街E S設置 ○生活基盤施設・・・川崎駅日進町高架下自転車駐車場 （仮称）京急川崎駅宮本町自転車駐車場 【提案事業】 ○事業活用調査（川崎駅東口サイン計画策定事業）・・・東口周辺 ○事業活用調査（まちづくり交付金事業効果検証調査） ○事業活用調査（川崎駅東口周辺自転車対策事業） 【関連事業】 ○住宅市街地総合整備事業・・・西口駅前広場、都市計画道路等の整備 ○交通結節点改善事業・・・東口駅前広場改良 ○都市再生交通拠点整備事業・・・東西自由通路EV、東西連絡歩道橋EV等
整備方針3 （往来しやすく、個性的で賑わいのあるまちづくり） ・東西及び東口駅前広場周辺の回遊性を向上し、東西の一体性を高めることで、中心市街地の活性化を図る。 ・駅周辺の多様な事業主体の人材育成による体制強化を行い、商業等の活性化を図り、賑わいのあるまちづくりを推進する。		【提案事業】 ○事業活用調査（まちづくり交付金事業効果検証調査） ○まちづくり活動推進事業（川崎駅周辺広域活性化事業）・・・東口周辺 【関連事業】 ○住宅市街地総合整備事業・・・西口駅前広場、都市計画道路等の整備 ○（仮称）川崎駅西口堀川町地区開発事業・・・西口民間開発（商業、集合住宅） ○交通結節点改善事業・・・東口駅前広場改良 ○都市再生交通拠点整備事業・・・東西自由通路EV、東西連絡歩道橋EV等 ○北口自由通路等整備事業
その他 【すぐれた都市景観形成】 ・景観法に基づく景観計画区域の指定を視野に入れ、各関係者との協調のもと、川崎の「顔」にふさわしい都市景観の形成を図る。 【市民協働のまちづくり】 ・駅周辺が抱えるゴミ問題、放置自転車、環境整備などの解決に向け、川崎の「顔」づくりを実現するエリアマネジメントを導入し、市民・企業・行政による継続的なまちづくり活動を推進する。		

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	4,069	交付限度額	1,627	国費率	0.4
---------	-------	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

事 業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路														
公園														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム		—			—									
地域生活基盤施設	自転車駐車場	日進町	川崎市	直	A＝243㎡	H20	H21	H20	H21	73	73	73		73
地域生活基盤施設	自転車駐車場	宮本町	川崎市	直	A＝398㎡	H22	H22	H22	H22	465	465	465		465
高質空間形成施設	緑化施設等 歩行支援施設、障害者誘導施設	駅前本町	川崎市	直	EV3基、ES4基 シェルター	H20	H22	H20	H22	2,660	2,660	2,660		2,660
高次都市施設														
既存建造物活用事業		—			—									
都市再生交通拠点整備事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
人になやさいまちづくり事業 (JR川崎駅東口駅前)		駅前本町	民間事業者	間	ES2基	H18	H18	H18	H18	240	240	160	80	160
人になやさいまちづくり事業 (京急川崎駅前)		駅前本町	民間事業者	間	ES4基	H19	H19	H19	H19	329	329	219	110	219
バリアフリー環境整備促進事業 (京急川崎駅前)		駅前本町	民間事業者	間	EV1基	H21	H21	H21	H21	300	300	200	100	200
バリアフリー環境整備促進事業 (川崎地下街)		小川町	民間事業者	間	ES1基	H22	H22	H22	H22	240	240	160	80	160
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型 耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										4,307	4,307	3,937	370	3,937

...A

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直ノ間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
地域創造支援 事業	川崎駅東口駅前広場修景整備事業	駅前本町	川崎市	直	A=30,900㎡	H22	H22	H22	H22	24	24	24		24
事業活用調査	川崎駅東口駅前広場計画調査	—	川崎市	直	—	H18	H18	H18	H18	13	13	13		13
	川崎駅東口サイン計画策定事業	—	川崎市	直	—	H19	H19	H19	H19	4	4	4		4
	川崎駅東口周辺自転車対策事業	—	川崎市	直	—	H21	H21	H21	H21	54	54	54		54
	まちづくり交付金事業効果検証調査	—	川崎市	直	—	H22	H22	H22	H22	2	2	2		2
まちづくり活動 推進事業	川崎駅周辺広域活性化事業	—	川崎市	直	—	H18	H22	H18	H22	35	35	35		35
合計										132	132	132	0	132

...B

[illegible]